



## 秋の七草

学校長 柴原 美樹子



暑かった夏が嘘のように、一雨ごとに秋が深まり、夜半にはきれいな虫の音が響いています。休み時間には、子どもたちが木の実探しや昆虫探し、秋の草花探しを楽しんでいます。5年生が植えた稲には穂が出始め、だんだんと頭を垂らすようになりました。学校では、前期が終了し、新たな気持ちで後期が始まる10月を迎えることとなります。

秋の野に 咲きたる花を <sup>およびおり</sup>指折り <sup>かぞ</sup>かき数ふれば <sup>くさ</sup>七種の花

<sup>はぎ</sup>萩の花 <sup>おぼなくずはな</sup>おぼなくず花 <sup>なでしこ</sup>撫子の花 <sup>おみなえし</sup>女郎花 <sup>ふじほかま</sup>また藤袴 <sup>あきがお</sup>朝顔の花(万葉集より)

さて、上記の二首は、奈良時代の歌人 山上憶良が詠んだ「秋の七草」の歌です。1つ目の歌では「秋に咲く草花には7種類ある」、2つ目の歌では「それは、萩、尾花、葛、撫子、女郎花、藤袴、朝顔の花のことである」と詠まれています。ここに登場する「尾花」とはススキの別名であり、「朝顔」はキキョウであるという説が有力です。春の七草はお粥にして食べますが、秋の七草は花の美しさを楽しむものです。学校の敷地内で秋の七種探しをしていると、地面を覆いつくすほどの「クズ」に出会いました。「クズ」はマメ科クズ属のつる性の多年草で日本各地に分布しています。そのツルは地面を這い、10メートル以上にも伸び、褐色の毛がびっしりと生えています。切っても切ってもどんどん伸びてくる頑丈なツルです。あまりの繁殖ぶりに除草しようとツルを引っ張ってみたら、びっしりとカメムシがついていました。思わず、声にならぬ声を発したほどです。でも、夏の終わりから秋にかけて、このクズには紫色のグラデーションが美しい、甘い香りの「穂」のような花が咲きます。

歌には詠まれていませんでしたが、西柴小のいたるところに秋の風物詩である「ヒガンバナ」が赤く色鮮やかな花を咲かせています。秋の野原に咲く花は、夏よりも落ち着いた色のものが多いような気がします。西柴小の周りは季節の移り変わりを感じることが出来る山や公園に恵まれています。虫の声を聴く。小さな花を愛でる。そんな自然を楽しむ心のゆとりを大切にしたいものです。

## 横浜こども会議 「だれにとっても居心地の良い学校づくり」

8月30日(火)金沢区役所で上記のテーマで中学校ブロックごとに話し合いをし、発表をしました。西柴小・中の代表者からは、思いやりを大切にして相手の気持ちを考える、悩みを相談しやすい環境をつくるのが大事、という思いが出され「生徒同士のつながりを強くして心の壁をなくそう」という共通のテーマで、小中が同じ思いをもって学校をよりよくしていきたいという提案がされました。あいさつ運動をしながらコミュニケーションを図り、仲を



## 第2回 西柴小・中学校運営協議会

9月14日(水)西柴小学校で開催されました。今回は学校行事評価・全国学力学習状況調査(小)や前期アンケート(中)の結果分析、課題解決に向けた取組を中心に話し合いが行われました。また、コロナ禍での小学校授業の様子を参観する時間をとり、たくさんの感想をいただきました。西柴小・中学校の教育活動をより一層充実させるために、様々な角度からの意見集約を行い、学校運営・改善に活かしていきたいと考えています。